

第2 生活行動に関する結果

1. 学習・自己啓発・訓練

(1) 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は52万3千人、行動者率は31.8%で5年前より0.1ポイント低下

過去1年間（平成22年10月20日～23年10月19日。以下同じ。）に何らかの「学習・自己啓発・訓練」を行った人は52万3千人で、行動者率は31.8%（全国平均35.2%）と都道府県別の全国順位は24位になっている。男女別にみると、男性が24万4千人、女性が27万9千人となっており、行動者率は男性が30.4%、女性が33.1%で、女性が男性より2.7ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年に比べ、0.1ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が0.5ポイント低下、女性が0.2ポイント上昇している。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が49.3%と最も高く、25～74歳で3割程度で横ばいとなり75歳以上は18.0%まで低下している。平成18年と比べると、10～14歳と55歳以上で上昇している。（図1-1）

これを男女別にみると、35～44歳と75歳以上を除く年齢階級で女性の方が高くなっている。（図1-2）

図1-1 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

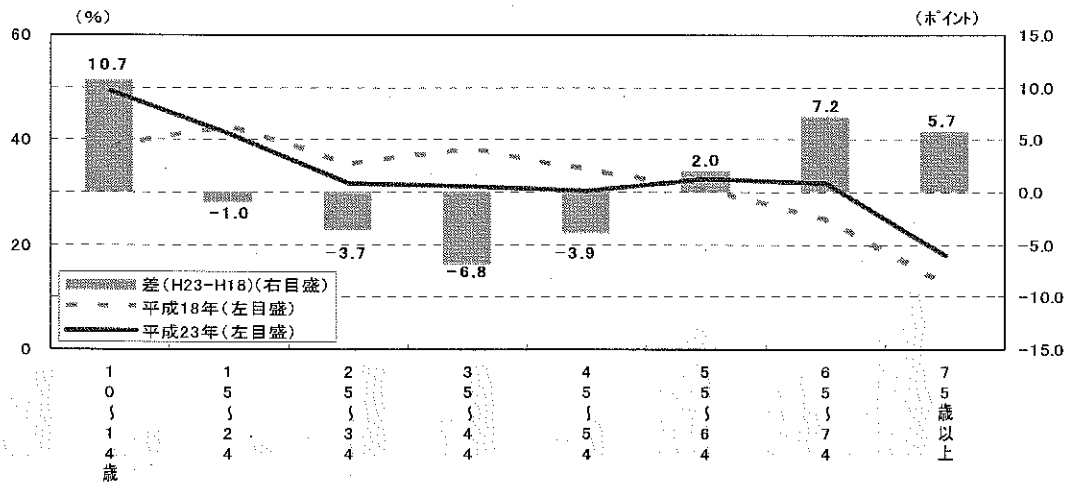
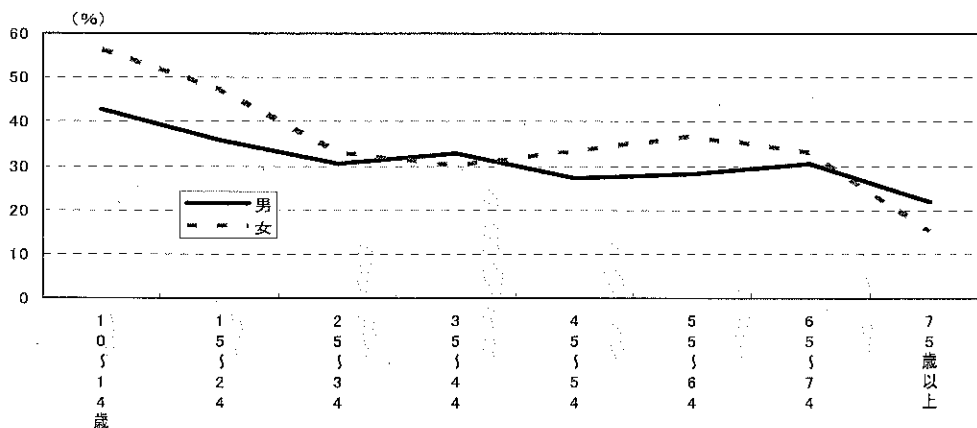


図1-2 「学習・自己啓発・訓練」の男女、年齢階級別行動者率



注) 「学習・自己啓発・訓練」は、社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業（授業、予習、復習）として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) 「パソコンなどの情報処理」は行動者率が低下

「学習・自己啓発・訓練」の種類別に行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」が9.8%と最も高く、次いで「芸術・文化」が8.7%、「英語」が8.3%などとなっている。これを男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が11.4%と最も高く、次いで「英語」が9.1%、「人文・社会・自然科学」が6.3%などとなっている。女性は「家政・家事」が11.6%と最も高く、次いで「芸術・文化」が11.1%、「パソコンなどの情報処理」が8.2%などとなっている。

平成18年と比べると、「英語」が0.5ポイント上昇、「商業実務・ビジネス関係」が2.0ポイント低下などとなっている。(図1-3、図1-4)

種類別に平均行動日数をみると、「家政・家事」が113.6日と最も高く、次いで「人文・社会・自然科学」が82.8日、「芸術・文化」が81.5日などとなっている。(図1-5)

図1-3 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率(平成18年, 23年)

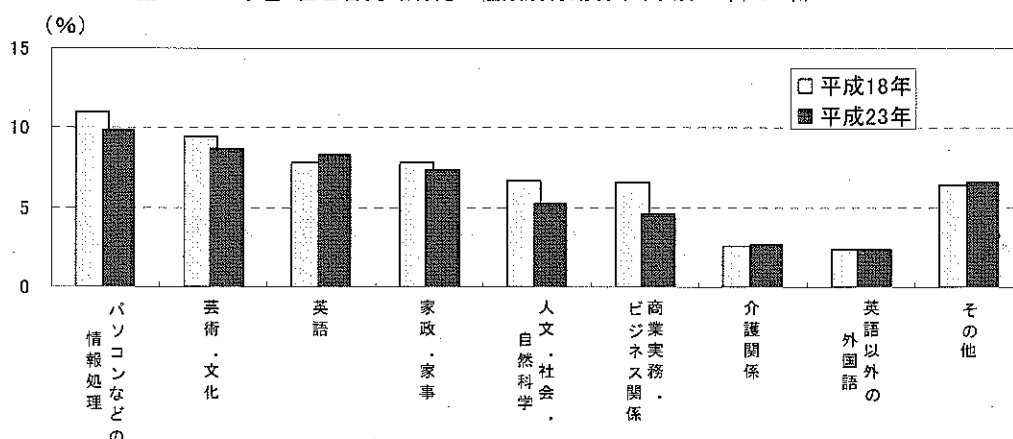


図1-4 「学習・自己啓発・訓練」の種類, 男女別行動者率

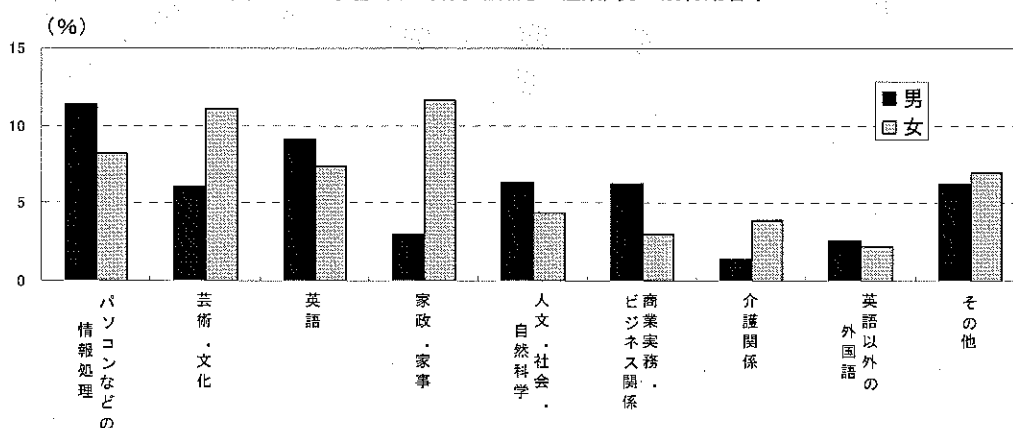
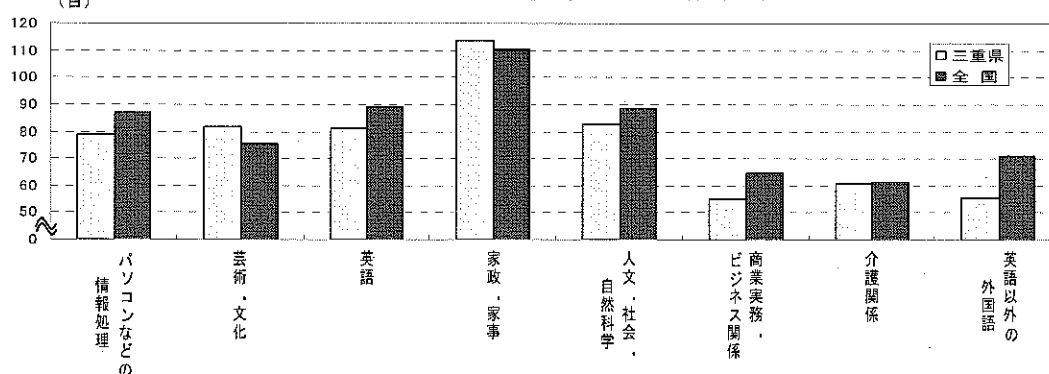


図1-5 「学習・自己啓発・訓練」の種類別平均行動日数

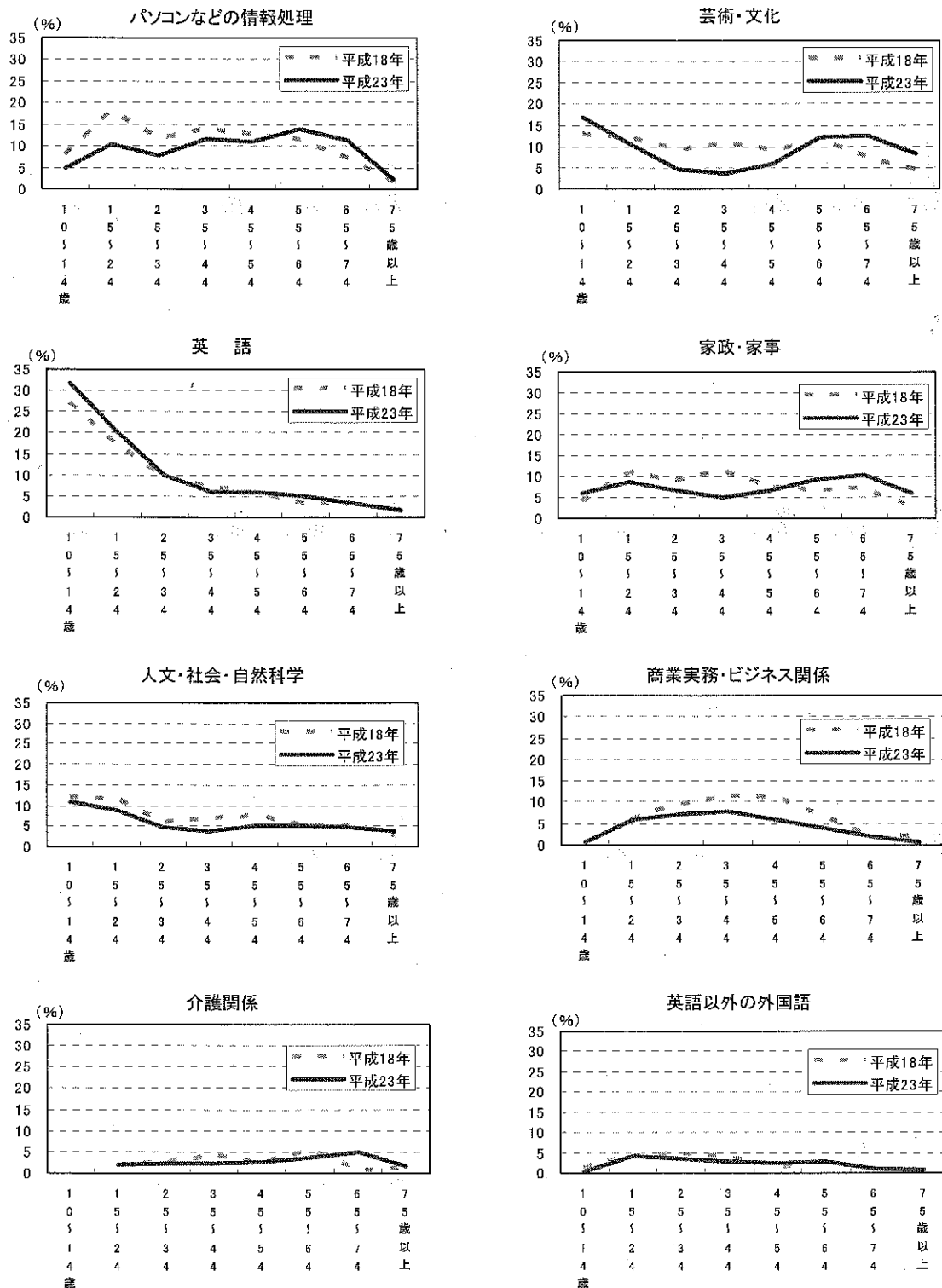


(3) 「英語」は25歳未満の行動者率が特に上昇

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「英語」は35歳未満で上昇しており、25歳未満が特に上昇している。「パソコンなどの情報処理」、「芸術・文化」、「家政・家事」は55歳以上で、「介護関係」は65歳以上で上昇している。

また、「商業実務・ビジネス関係」は25～64歳で減少するなど、35～44歳では、主な種類の全てで低下している。(図1-6)

図1-6 「学習・自己啓発・訓練」の主な種類、年齢階級別行動者率(平成18年, 23年)

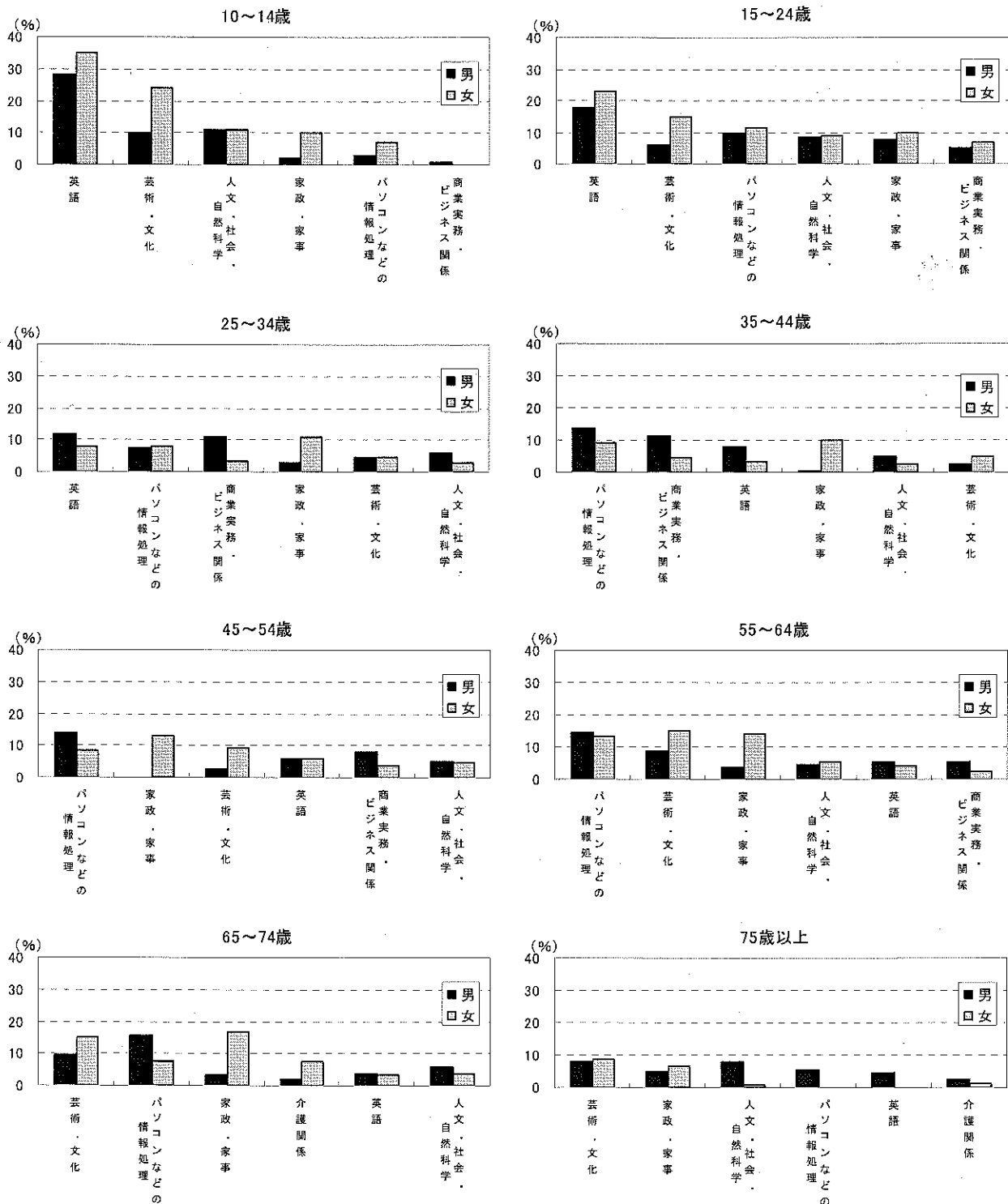


注) 「商業実務・ビジネス関係」の平成18年と「介護関係」の平成18, 23年の10~14歳には、データが存在しない。

(4) 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率は、10～34歳は「英語」、35～64歳は「パソコンなどの情報処理」、65歳以上は「芸術・文化」が最も高い

「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別の行動者率を主な種類別にみると、男女計では10～34歳は「英語」が最も高く、うち10～24歳は女性が高くなっている。35～64歳は「パソコンなどの情報処理」が最も高く、そのうち全ての年齢階級で男性が高くなっている。65歳以上は「芸術・文化」が最も高く、いずれの年齢階級も女性が高くなっている。(図1-7)

図1-7 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別、主な種類別、男女別行動者率



注) 各年齢階級における行動者率の男女計が高い上位6種類について表章

2 ボランティア活動

(1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は44万人、行動者率は26.7%で5年前より2.0ポイント上昇

過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は44万人で、行動者率は26.7%（全国平均26.3%）と都道府県別の全国順位は30位になっている。男女別にみると、男性が21万7千人、女性が22万3千人となっており、行動者率は男性が27.0%、女性が26.4%で、男性が女性より0.6ポイント高くなっている。

行動者率は、平成18年に比べ2.0ポイント上昇している。男女別にみると、男性が2.1ポイント上昇、女性が1.9ポイント上昇している。

行動者率を年齢階級別にみると、35～44歳が36.4%と最も高く、75歳以上が16.8%と最も低くなっている。平成18年と比べると、15～24歳と35～44歳で特に上昇している。（図2-1）

これを男女別にみると、15～54歳と65～74歳では女性の方が高く、10～14歳、55～64歳、75歳以上では男性の方が高くなっている。（図2-2）

図2-1 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率(平成18年, 23年)

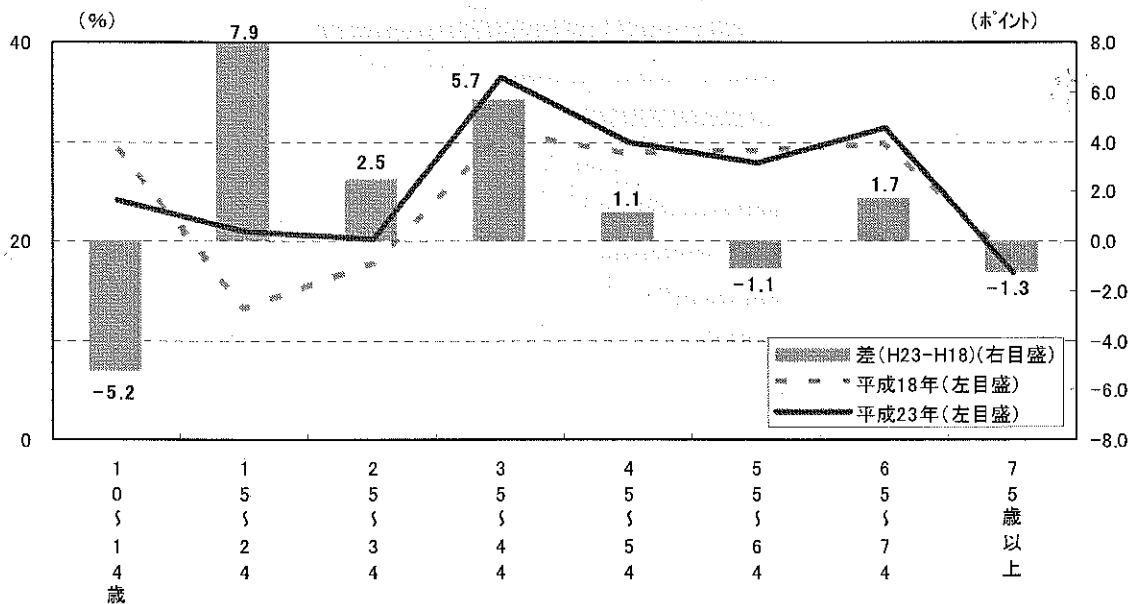
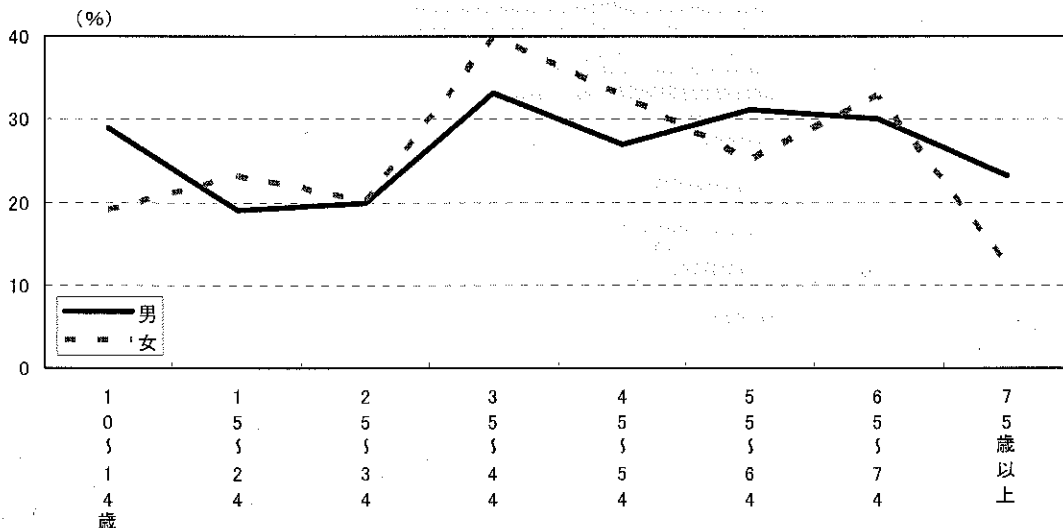


図2-2 「ボランティア活動」の男女、年齢階級別行動者率



(2) 行動者率は「子どもを対象とした活動」、「災害に関係した活動」で上昇

「ボランティア活動」の行動者率を種類別にみると、「まちづくりのための活動」が12.8%と最も高く、次いで「子どもを対象とした活動」が8.0%、「自然や環境を守るための活動」が4.8%などとなっている。これを平成18年と比べると、「子どもを対象とした活動」が3.4ポイント、「災害に関係した活動」が2.6ポイント上昇している。(図2-3)

男女別にみると、「まちづくりのための活動」は男性が14.6%、女性が11.1%で男女差が3.5ポイントと最も大きく、次いで「子どもを対象とした活動」は男性が6.4%、女性が9.6%で3.2ポイント差、「高齢者を対象とした活動」は男性が2.3%、女性が4.2%で1.9ポイント差となっている。(図2-4)

図2-3 「ボランティア活動」の種類別行動者率(平成18年, 23年)

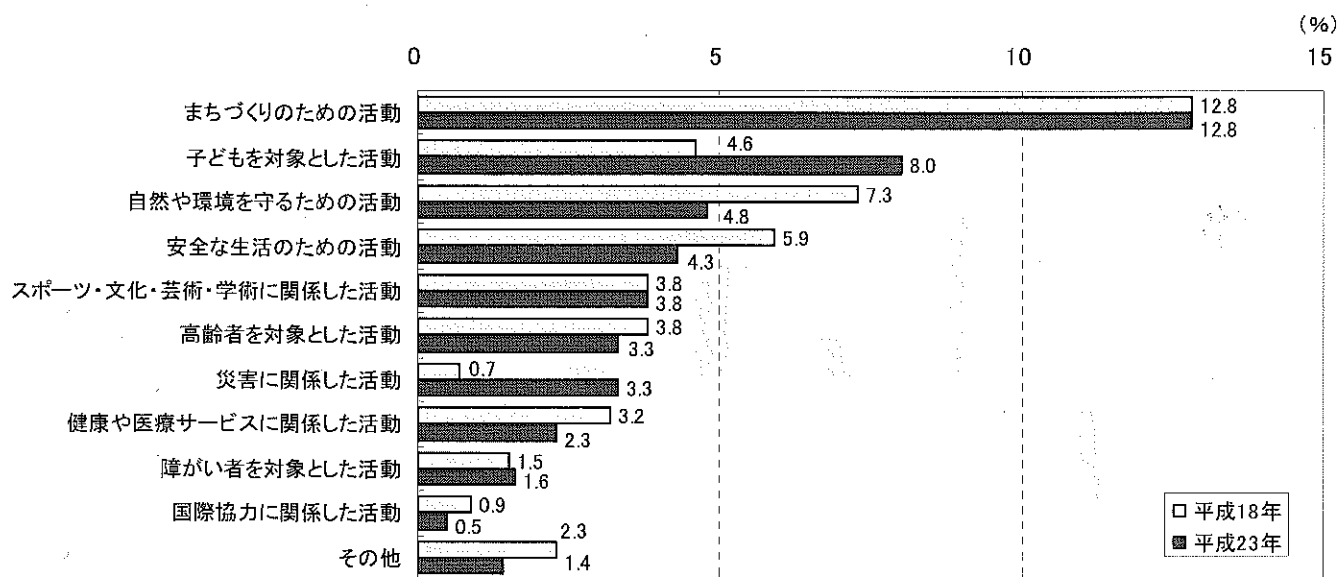
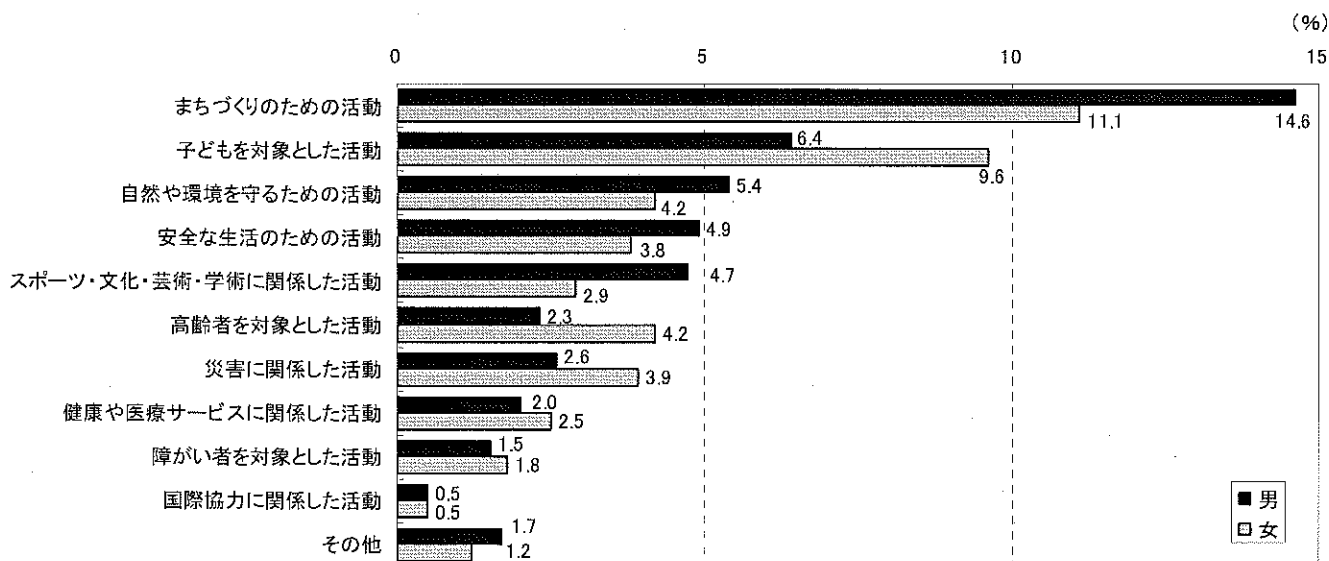


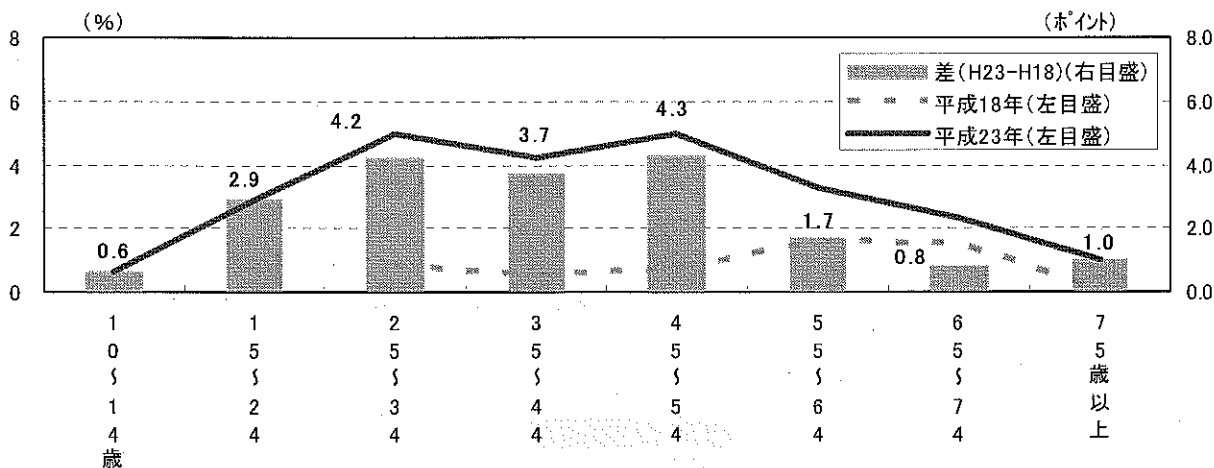
図2-4 「ボランティア活動」の種類, 男女別行動者率



(3) 「災害に関係した活動」の行動者率は全ての年齢階級で上昇

「災害に関係した活動」の行動者率を年齢階級別に平成18年と比べると、10～24歳を除く全ての年齢階級で上昇しており、特に25～54歳で3.7ポイント以上上昇している。(図2-5)

図2-5 「災害に関係した活動」の年齢階級別行動者率(平成18年, 23年)



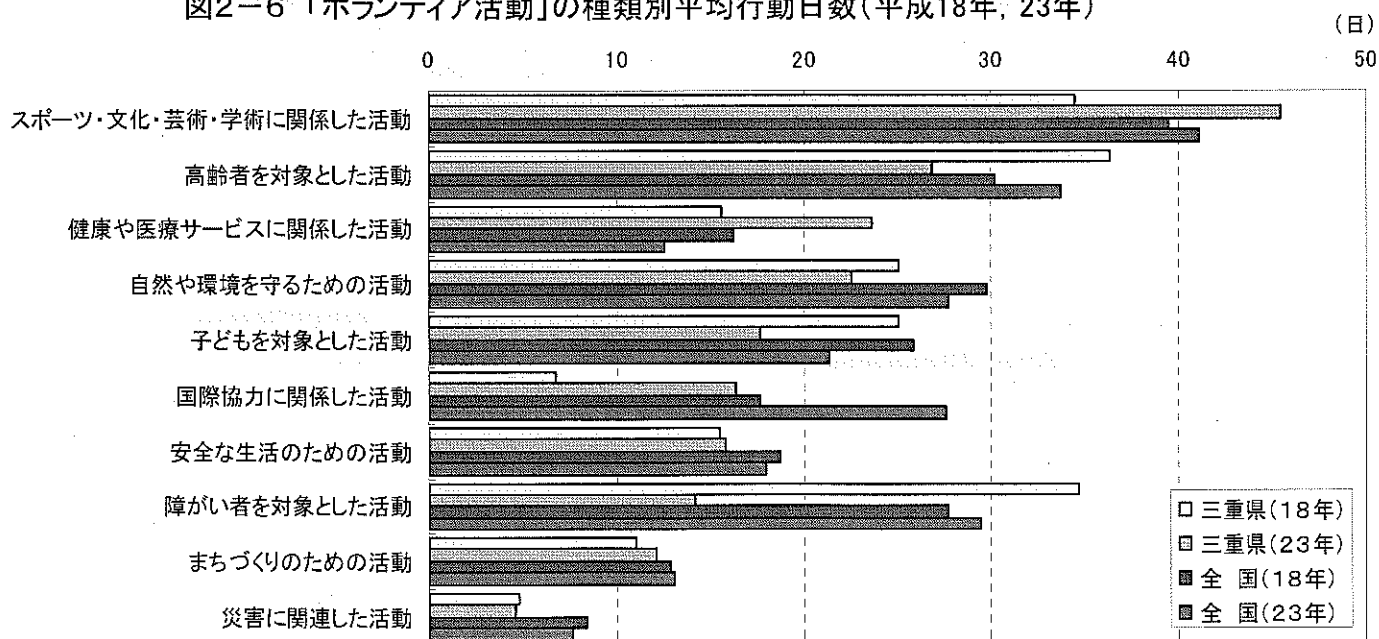
注) 平成18年の10～14歳と15～24歳には、データが存在しない。

(4) 平均行動日数は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が最も多い

行動者について平均した過去1年間の行動日数(平均行動日数。以下同じ。)を種類別にみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が45.4日と最も多く、全国より4.3日多い。次いで「高齢者を対象とした活動」が26.8日となっているが、全国より6.9日少なく、3位の「健康や医療サービスに関係した活動」が23.6日などとなっており、「災害に関係した活動」が4.6日と最も少なくなっている

平成18年と比べると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が11.0日増加、「国際協力に関係した活動」が9.6日増加などとなり、「障がい者を対象とした活動」が20.4日減少、「高齢者を対象とした活動」が9.5日減少などとなっている。(図2-6)

図2-6 「ボランティア活動」の種類別平均行動日数(平成18年, 23年)

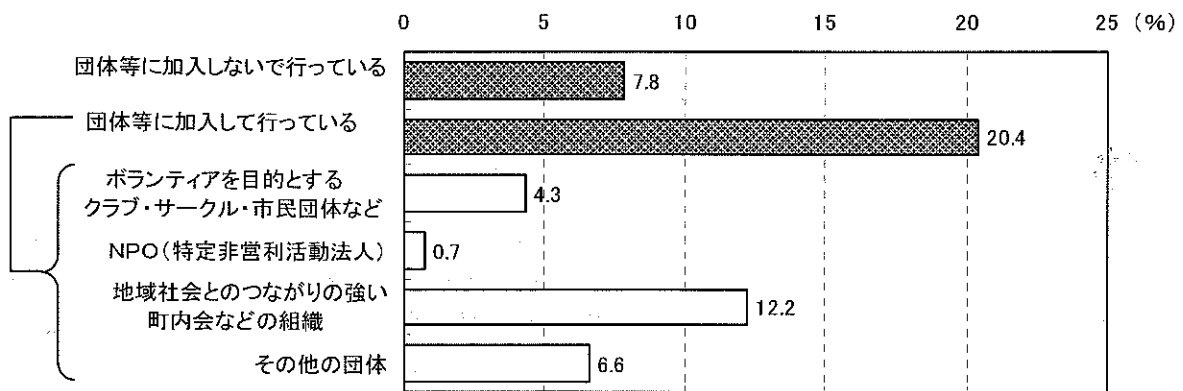


(5) 「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての活動の行動者率が最も高い

「ボランティア活動」の行動者率を形態別にみると、団体等に加入して行っている活動が、加入しないで行っている活動よりも高くなっている。団体等に加入して行っている活動を形態別にみると、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入して行っている活動が最も高く、次いで「その他の団体」に加入して行っている活動などとなっている。(図2-7)

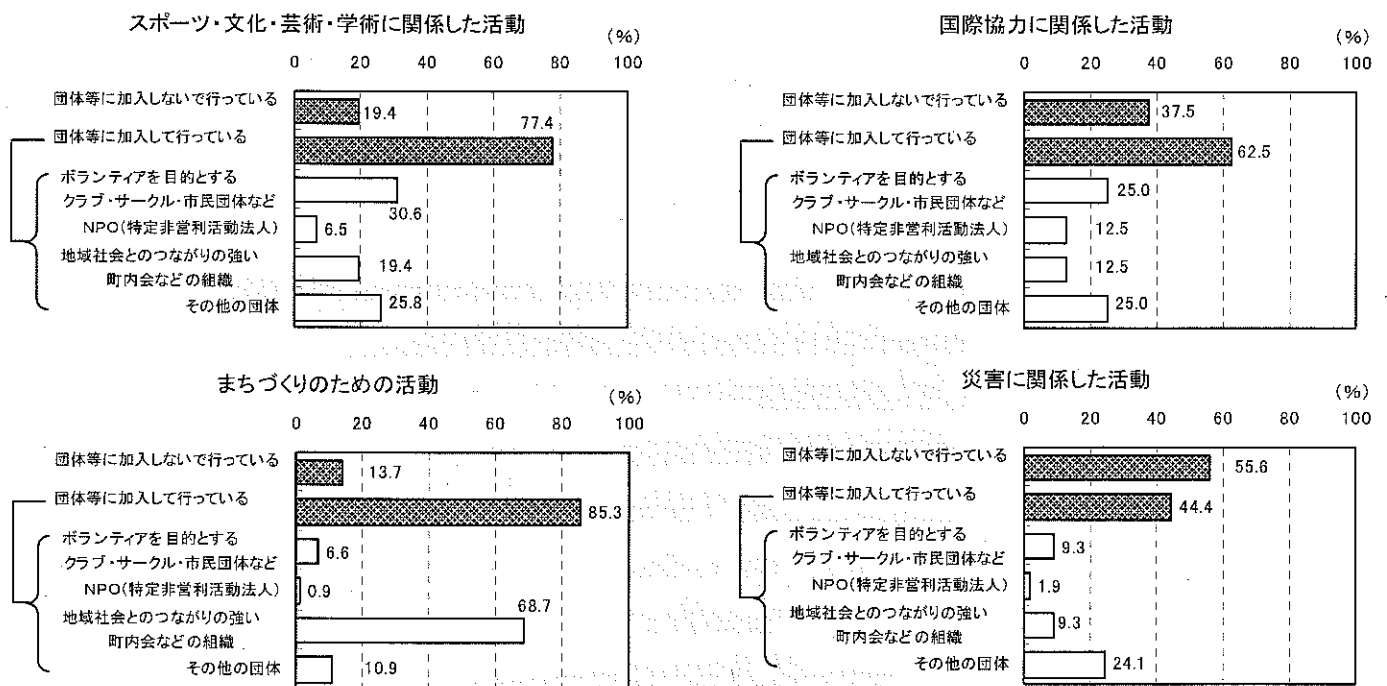
行動者の割合を種類、形態別にみると、「ボランティアを目的とするクラブ・サークル・市民団体など」に加入しての活動は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が、「NPO(特定非営利活動法人)」に加入しての活動は「国際協力に関係した活動」が、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての活動は「まちづくりのための活動」が最も高くなっている。また、「災害に関係した活動」については団体等に加入しないで行っている活動の割合が最も高くなっている。(図2-8)

図2-7 「ボランティア活動」の形態別行動者率



注)複数回答あり。

図2-8 「ボランティア活動」の主な種類、形態別行動者の割合



注) 行動者の割合は、種類ごとの行動者数(活動の形態が不詳のものを含む。)に占める割合。複数回答あり。

3 スポーツ

(1) 1年間に「スポーツ」を行った人は102万2千人、行動者率は62.1%で5年前より1.1ポイント上昇

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は102万2千人で、行動者率は62.1%（全国平均63.0%）と都道府県別の全国順位は20位になっている。男女別にみると、男性が54万2千人、女性が48万人となっており、行動者率は男性が67.6%、女性が56.9%で、男性が女性より10.7ポイント高くなっている。

行動者率は、平成18年に比べ1.1ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が1.6ポイント上昇、女性が0.6ポイント上昇している。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が93.5%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。平成18年と比べると、特に25～34歳は低下、65歳以上は上昇している。

(図3-1)

これを男女別にみると、すべての年齢階級で男性の方が高くなっており、15～24歳、35～44歳、75歳以上で特に差が大きくなっている。(図3-2)

図3-1 「スポーツ」の年齢階級別行動者率(平成18年, 23年)

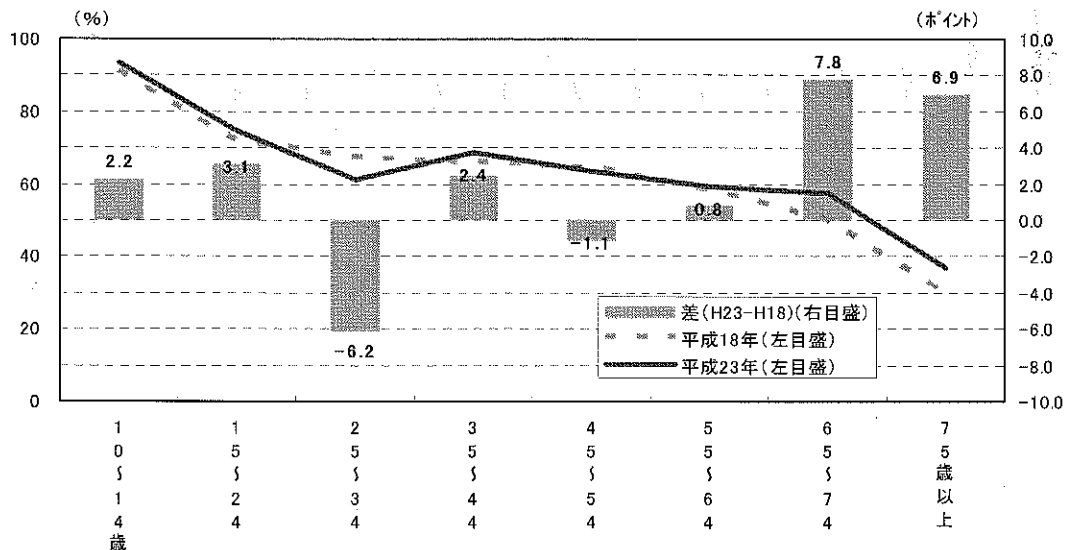
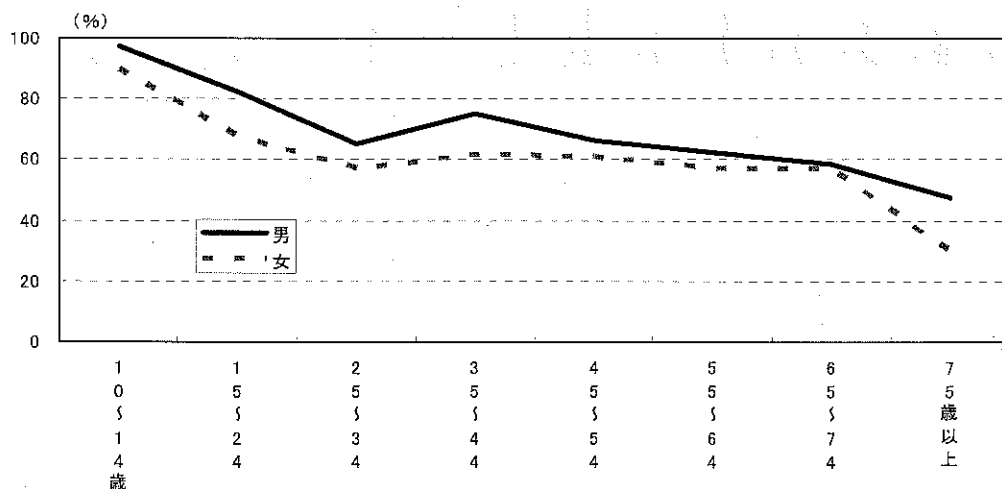


図3-2 「スポーツ」の男女、年齢階級別行動者率



注：「スポーツ」には、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) 行動者率は「ボウリング」などが低下、「ジョギング・マラソン」などが上昇

「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が33.8%と最も高く、次いで「ボウリング」が14.1%となっている。これを平成18年と比べると、「ジョギング・マラソン」が1.6ポイント上昇、「サイクリング」が1.5ポイント上昇、「ウォーキング・軽い体操」が1.3ポイント上昇などとなっている一方、「ボウリング」が5.8ポイント低下、「水泳」が3.0ポイント低下、「スキー・スノーボード」が1.9ポイント低下などとなっている。(図3-3)

男女別にみると、男女共に「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで「ボウリング」となっており、以下、男性は「つり」、女性は「器具を使ったトレーニング」などとなっている。男女差が最も大きいのは、「つり」で12.3ポイント、次いで「野球」の11.8ポイント、「ゴルフ」の11.6ポイントの順となっている。(図3-4)

図3-3 「スポーツ」の種類別行動者率(平成18年, 23年)

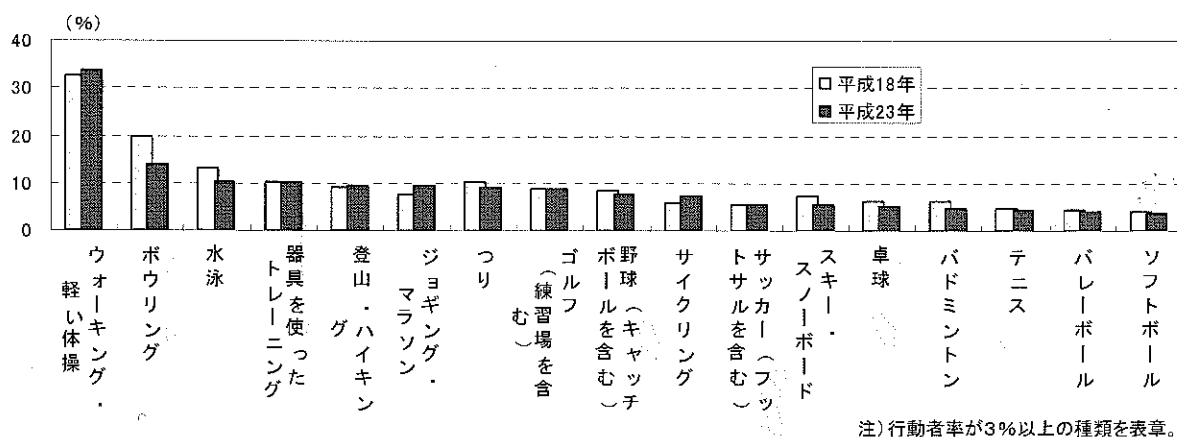
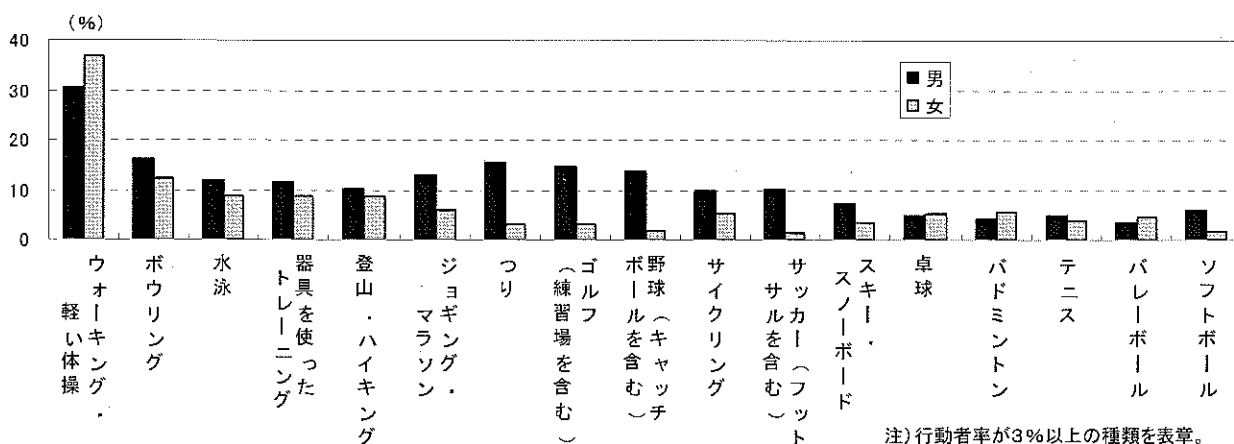


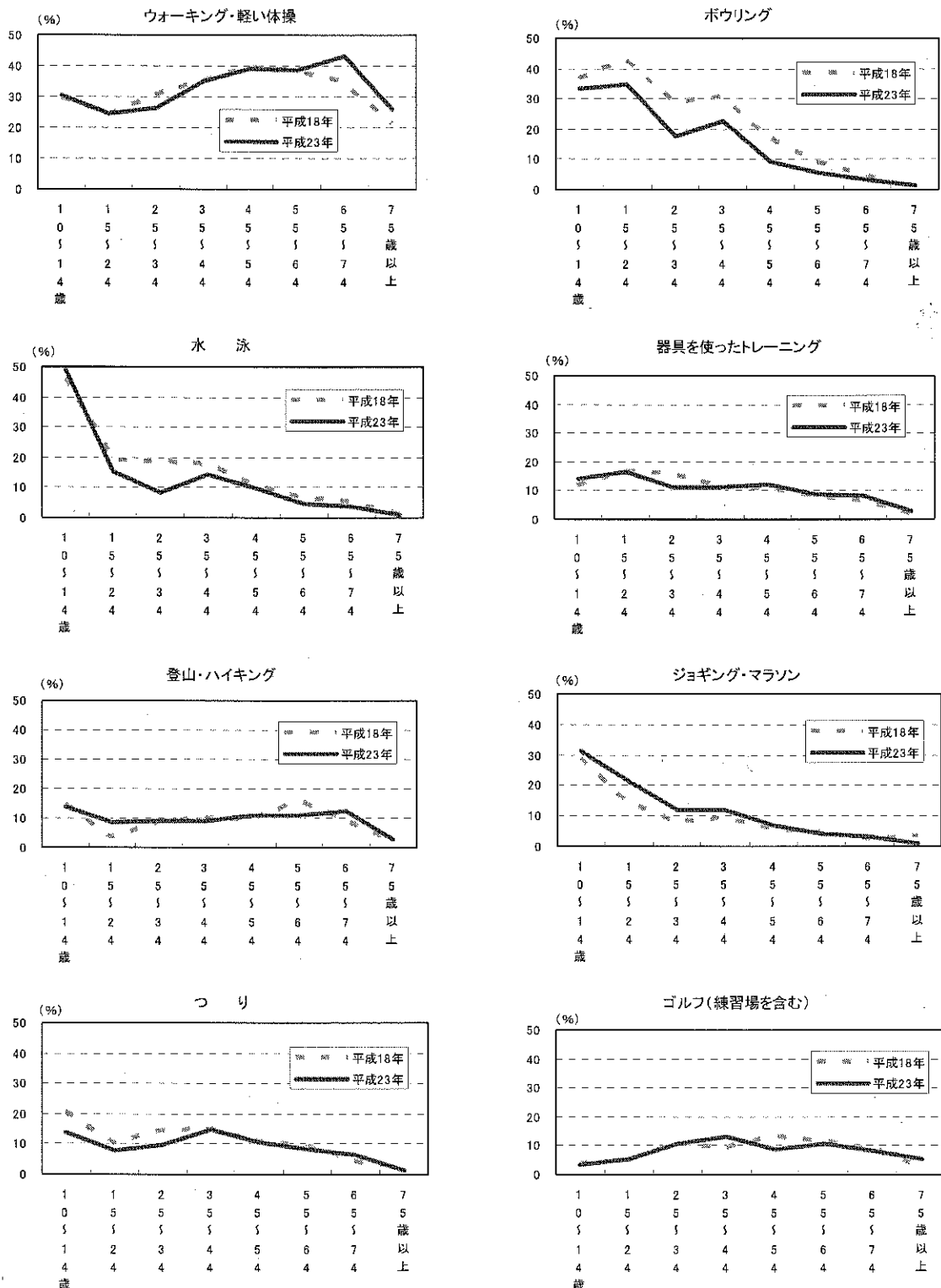
図3-4 「スポーツ」の種類, 男女別行動者率



(3) 「ジョギング・マラソン」は15～34歳、「ウォーキング・軽い体操」は65歳以上で行動者率が特に上昇

「スポーツ」の行動者率を種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「ウォーキング・軽い体操」は65歳以上、「ジョギング・マラソン」は15～34歳で特に上昇している。また、「ボウリング」は64歳未満、「水泳」は15～44歳、「器具を使ったトレーニング」は25～34歳、「登山・ハイキング」は55～64歳、「つり」は34歳未満、「ゴルフ」は45～54歳で減少している。(図3-5)

図3-5 「スポーツ」の主な種類、年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

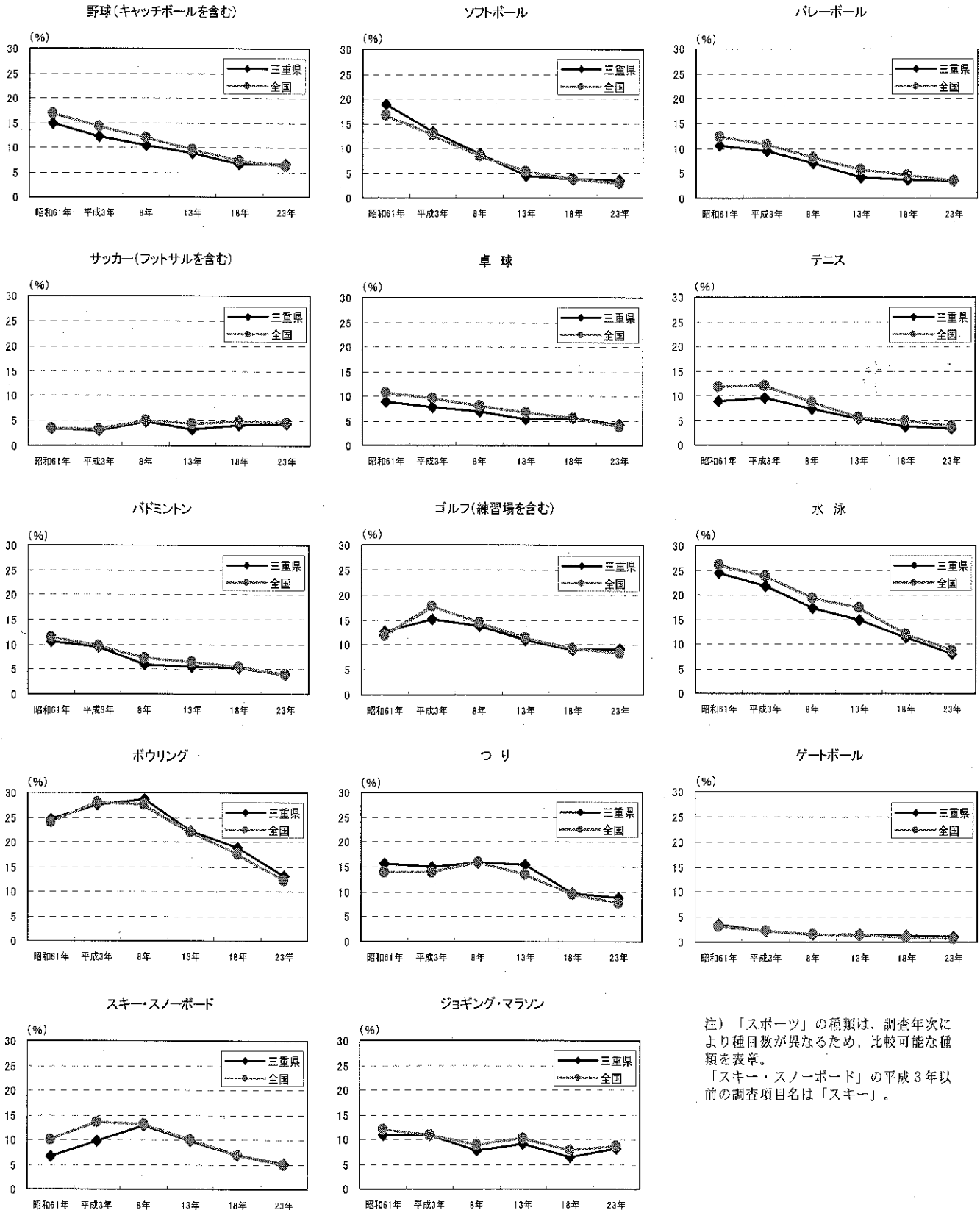


注) 行動者率の高い上位8種類について表章

(4) 過去 20 年間の推移をみると、全体的に低下傾向

過去 20 年間で比較可能な「スポーツ」の種類別の行動者率（15 歳以上）の推移をみると、おおむね全国の傾向と同様の動きを示しており、全体的に低下傾向にある。（図 3-6）

図 3-6 「スポーツ」の主な種類別行動者率の推移（15 歳以上）



注) 「スポーツ」の種類は、調査年次により種目数が異なるため、比較可能な種類を表す。
「スキー・スノーボード」の平成3年以前の調査項目名は「スキー」。

4 趣味・娯楽

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は138万6千人、行動者率は84.2%で5年前より2.2ポイント上昇

過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は138万6千人で、行動者率は84.2%（全国平均84.8%）と都道府県別の全国順位は18位になっている。男女別にみると、男性が67万2千人、女性が71万5千人となっており、行動者率は男性が83.7%、女性が84.7%で、女性が男性より1.0ポイント高くなっている。

行動者率は、平成18年に比べ2.2ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が0.8ポイント上昇、女性が3.5ポイント上昇している。

行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳が95.7%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。平成18年と比べると、35～44歳と65歳以上が特に上昇している。（図4-1）

これを男女別にみると、15歳以上75歳未満では女性の方が高く、10～14歳と75歳以上では男性の方が高くなっている。（図4-2）

図4-1 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率(平成18年, 23年)

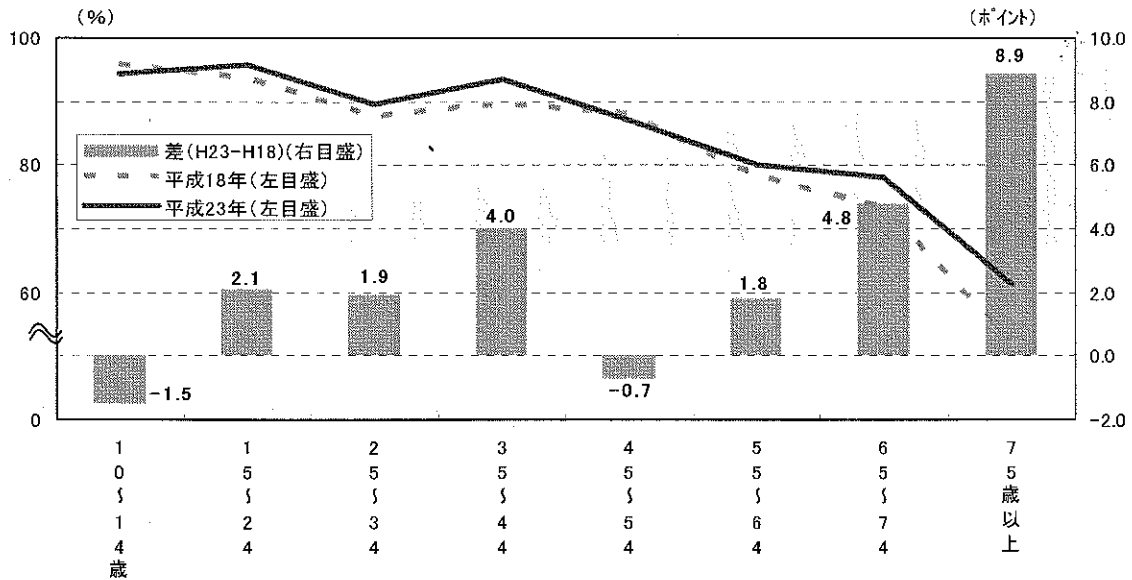
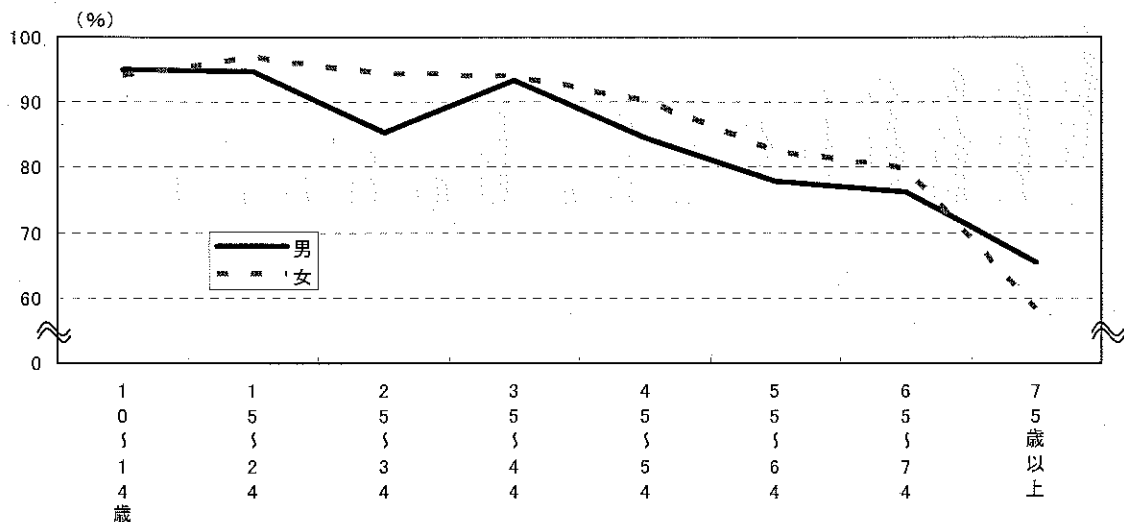


図4-2 「趣味・娯楽」の男女, 年齢階級別行動者率

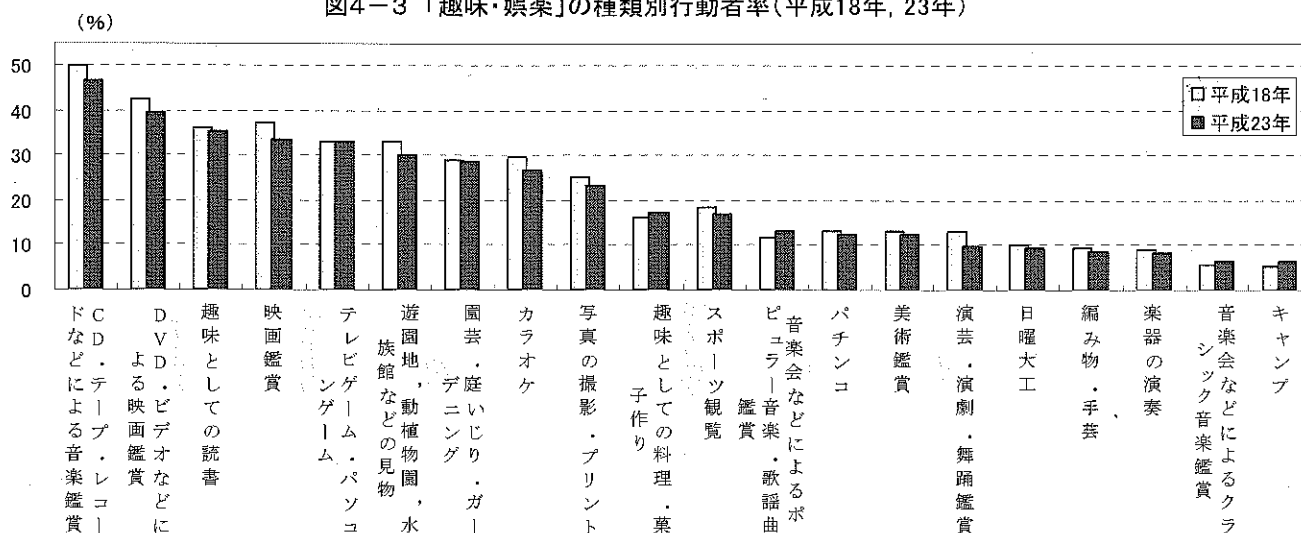


(2) 行動者率は全体的に低下傾向、「音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」、「キャンプ」などは僅かに上昇

「趣味・娯楽」の種類別行動者率をみると、「CDなどによる音楽鑑賞」が46.8%と最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が39.6%、「趣味としての読書」が35.5%となっている。これを平成18年と比べると、「映画鑑賞」が3.7ポイント低下、「CDなどによる音楽鑑賞」と「演芸・演劇・舞踊鑑賞」が3.3ポイント低下などとなっており、ほとんどの種類で低下している。一方、「音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」、「キャンプ」は、それぞれ1.3ポイント、1.1ポイントなどと僅かに上昇している。(図4-3)

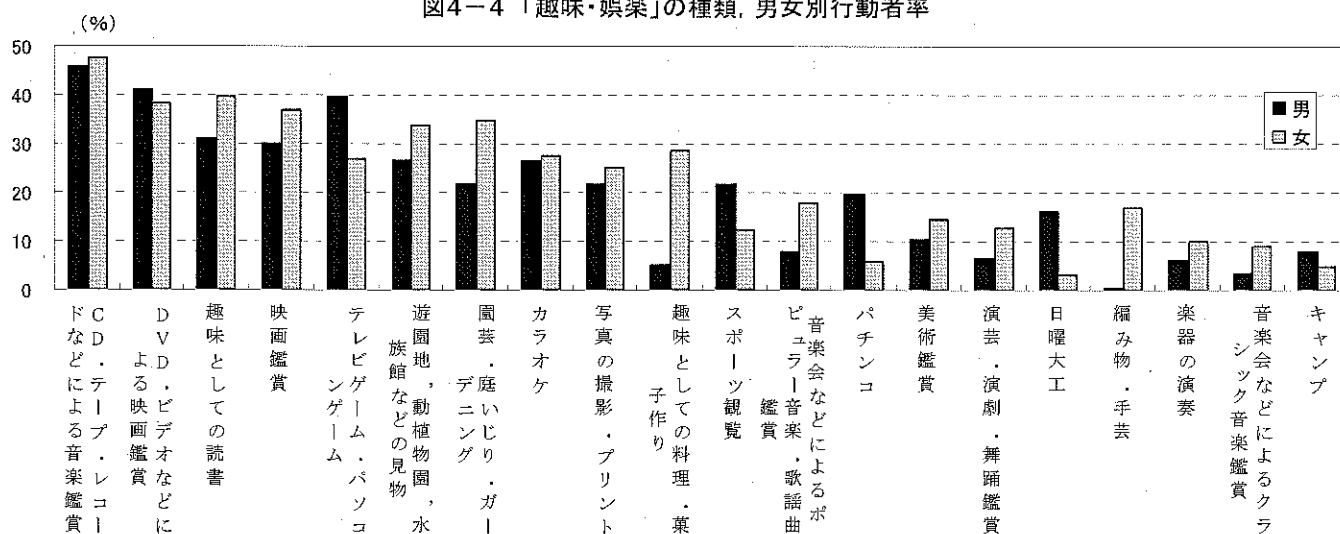
男女別にみると、男性は「CDなどによる音楽鑑賞」が46.0%と最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が41.1%、「テレビゲーム・パソコンゲーム」が39.8%などとなっている。女性は「CDなどによる音楽鑑賞」が47.5%と最も高く、次いで「趣味としての読書」が39.7%、「DVDなどによる映画鑑賞」が38.3%などとなっている。男女差が最も大きいのは、「趣味としての料理・菓子作り」で23.6ポイント、次いで「編み物・手芸」の16.7ポイント、「パチンコ」の14.1ポイントの順となっている。(図4-4)

図4-3 「趣味・娯楽」の種類別行動者率(平成18年, 23年)



注) 行動者率が上位20の「趣味・娯楽」の種類を表章。

図4-4 「趣味・娯楽」の種類, 男女別行動者率



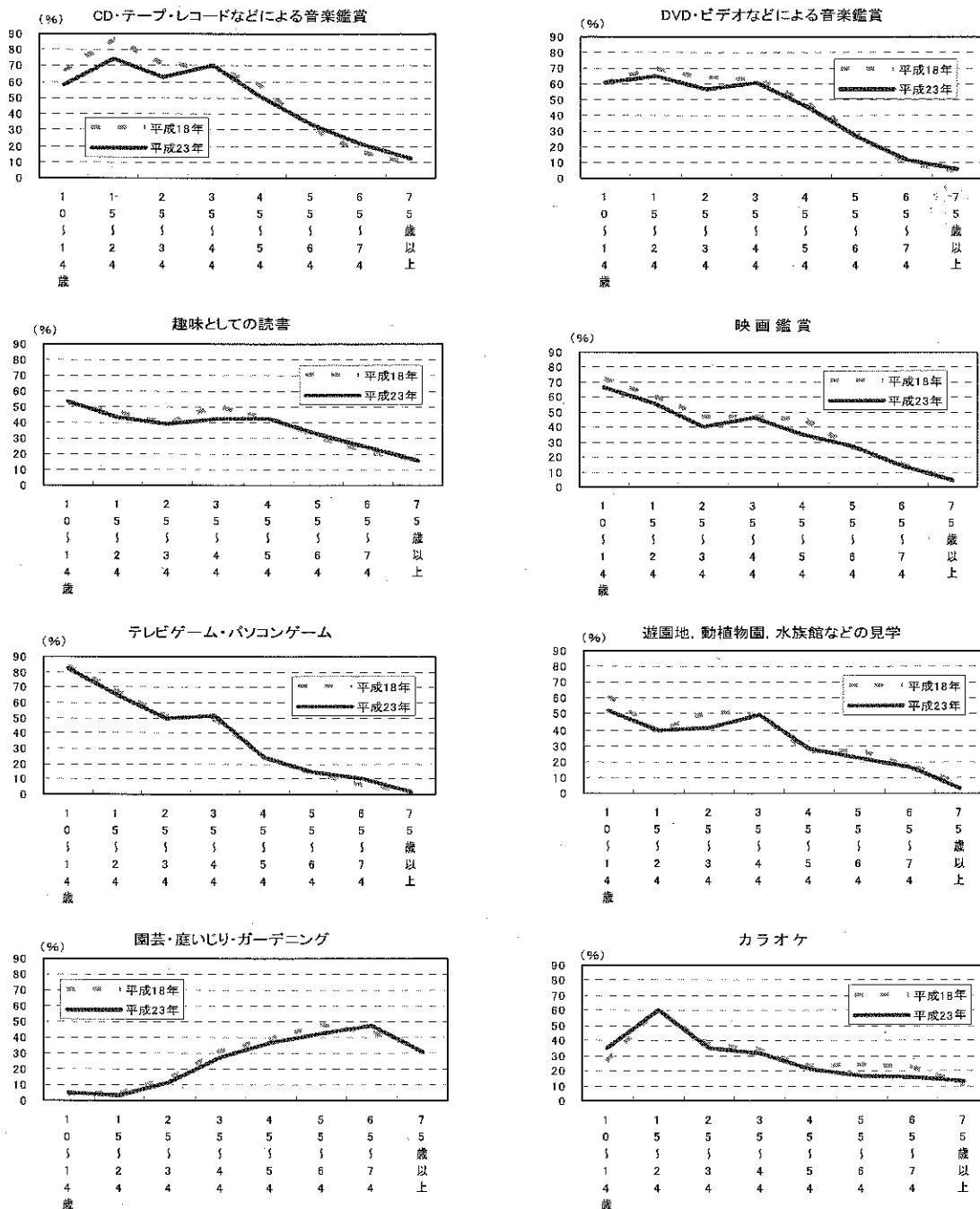
注) 行動者率が上位20の「趣味・娯楽」の種類を表章。

(3) 「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」などは 65～74 歳、「カラオケ」は 10～14 歳で行動者率が特に上昇

「趣味・娯楽」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成 18 年と比べると、「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」は 35～44 歳を除き 55 歳未満で、「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞」は 15 歳以上 65 歳未満で、「映画鑑賞」は 55 歳未満で、「園芸・庭いじり・ガーデニング」は 65～74 歳を除き 15 歳以上で、「カラオケ」は 25 歳以上 75 歳未満で低下している。

また、「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」、「テレビゲーム・パソコンゲーム」、「園芸・庭いじり・ガーデニング」などは 65～74 歳で、「カラオケ」は 10～14 歳で特に上昇している。(図 4-5)

図 4-5 「趣味・娯楽」の主な種類、年齢階級別行動者率(平成 18 年, 23 年)



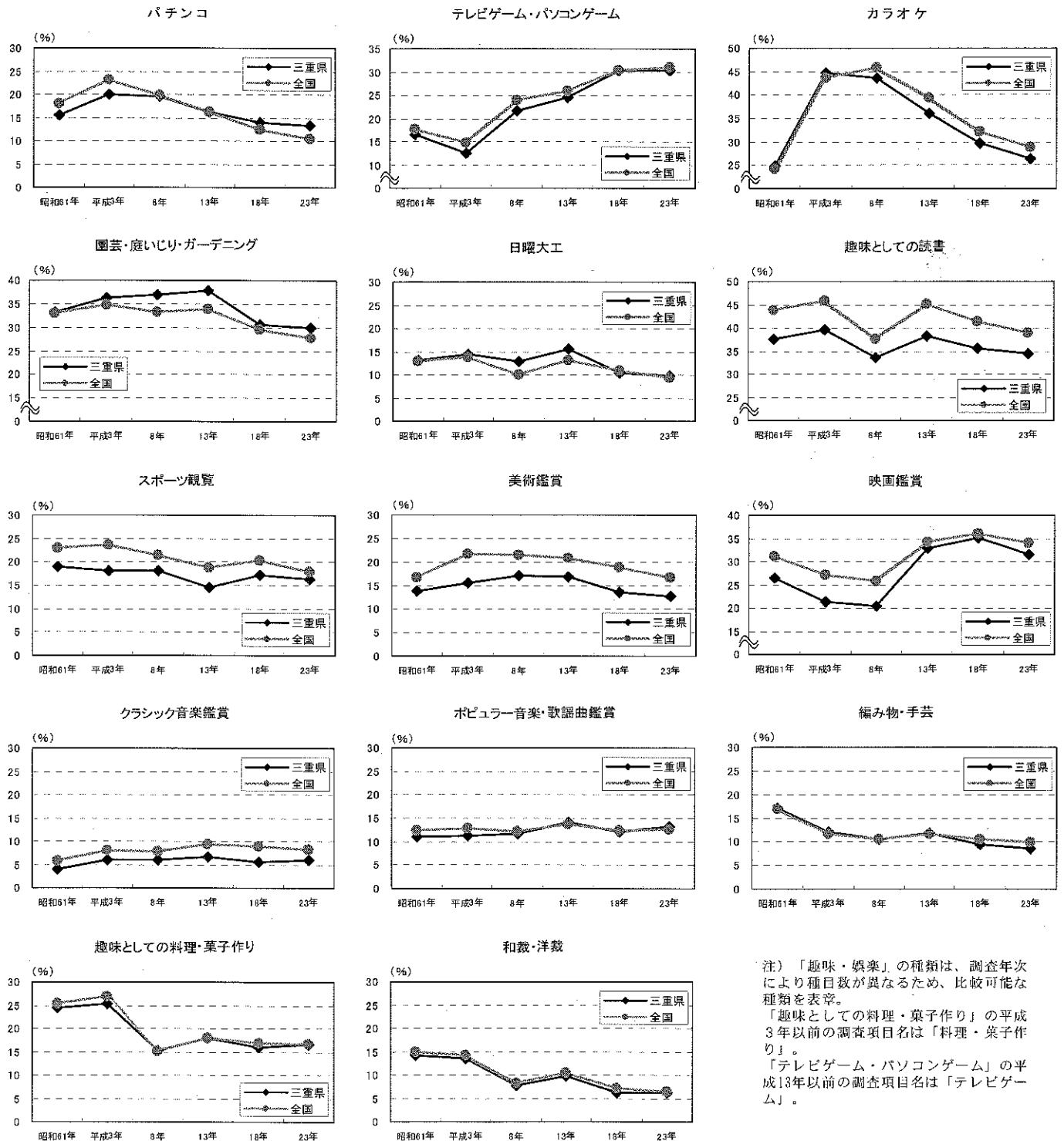
注) 行動者率の高い上位 8 種類について表章

(4) 過去 25 年間の推移をみると、大きく上昇してきた「テレビゲーム・パソコンゲーム」は横ばい、「パチンコ」、「カラオケ」は低下傾向

過去 25 年間で比較可能な「趣味・娯楽」の行動者率（15 歳以上）の推移を種類別にみると、おおむね全国の傾向と同様の動きを示しており、平成 18 年まで大きく上昇してきた「テレビゲーム・パソコンゲーム」が、平成 23 年は横ばいとなった。

また、「園芸・庭いじり・ガーデニング」などは平成 13 年をピークに低下、「パチンコ」と「カラオケ」は平成 3 年をピークに低下している。（図 4-6）

図 4-6 「趣味・娯楽」の種類別行動者率の推移（15 歳以上）



注) 「趣味・娯楽」の種類は、調査年次により種目数が異なるため、比較可能な種類を表す。
 「趣味としての料理・菓子作り」の平成3年以前の調査項目名は「料理・菓子作り」。
 「テレビゲーム・パソコンゲーム」の平成13年以前の調査項目名は「テレビゲーム」。

5 旅行・行楽

(1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は120万6千人、行動者率は73.3%で5年前より1.7ポイント低下

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は120万6千人で、行動者率は73.3%（全国平均73.2%）と都道府県別の全国順位は20位になっている。男女別にみると、男性が57万4千人、女性が63万2千人となっており、行動者率は男性が71.5%、女性が75.0%で、女性が男性より3.5ポイント高くなっている。

行動者率は、平成18年に比べ1.7ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が1.2ポイント低下、女性が2.2ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が84.9%と最も高く、15～24歳で76.8%と低下するが、25～34歳で84.0%と再び上昇し35歳以上は年齢が高くなるにつれて低下している。平成18年と比べると、10～14歳と65～74歳で特に低下している。（図5-1）

これを男女別にみると、10～14歳と75歳以上を除く年齢階級で女性の方が高くなっている。（図5-2）

図5-1 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率(平成18年, 23年)

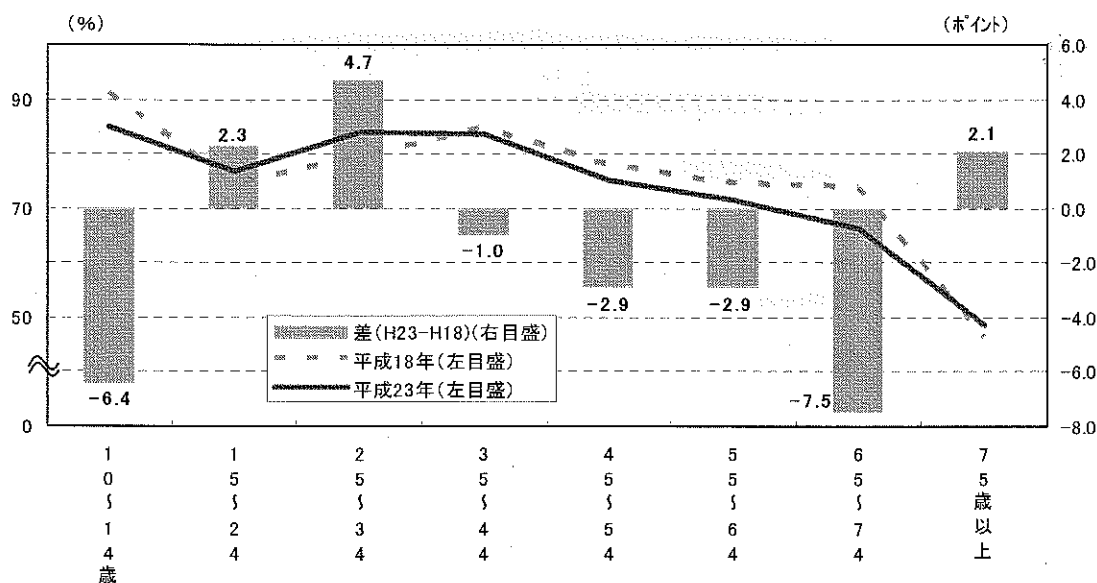
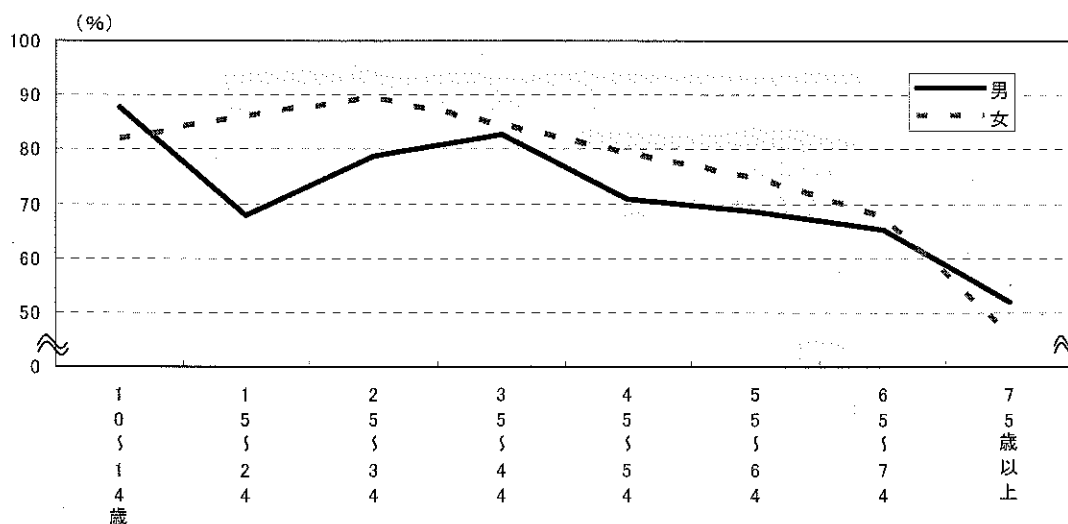


図5-2 「旅行・行楽」の男女, 年齢階級別行動者率



(2) 行動者率は「観光旅行（国内）」が47.2%、「観光旅行（海外）」は6.6%

「旅行・行楽」の種類別に行動者率をみると、「行楽（日帰り）」が60.8%、観光旅行では国内が47.2%、海外が6.6%となっている。これを平成18年と比べると、「行楽（日帰り）」が0.5ポイント低下、「観光旅行（国内）」が3.4ポイント低下などとなっており、「帰省・訪問などの旅行」を除くすべての種類で行動者率は低下している。（図5-3）

男女別にみると、「帰省・訪問などの旅行」と国内及び海外の「業務出張・研修・その他」を除いた種類で、女性の方が高くなっている。男女差が最も大きいのは、「業務出張・研修・その他（国内）」で11.7ポイント、次いで「行楽（日帰り）」の7.1ポイント、「帰省・訪問などの旅行」の2.3ポイントの順となっている。（図5-4）

図5-3 「旅行・行楽」の種類別行動者率(平成18年, 23年)

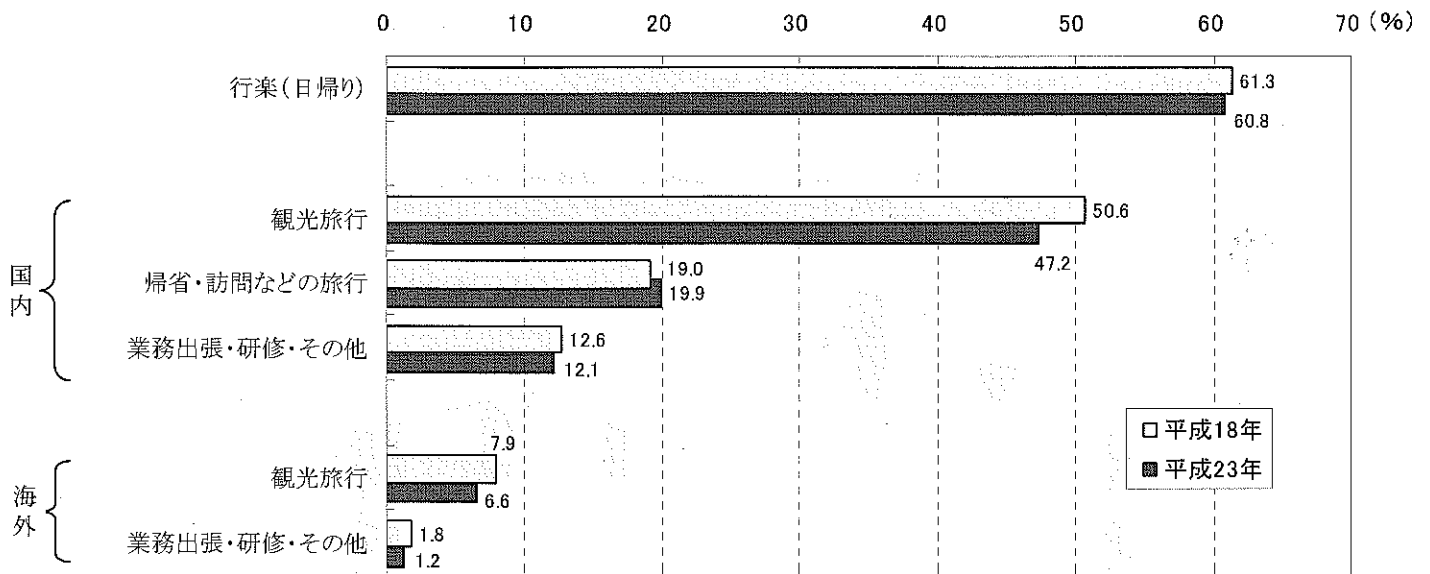
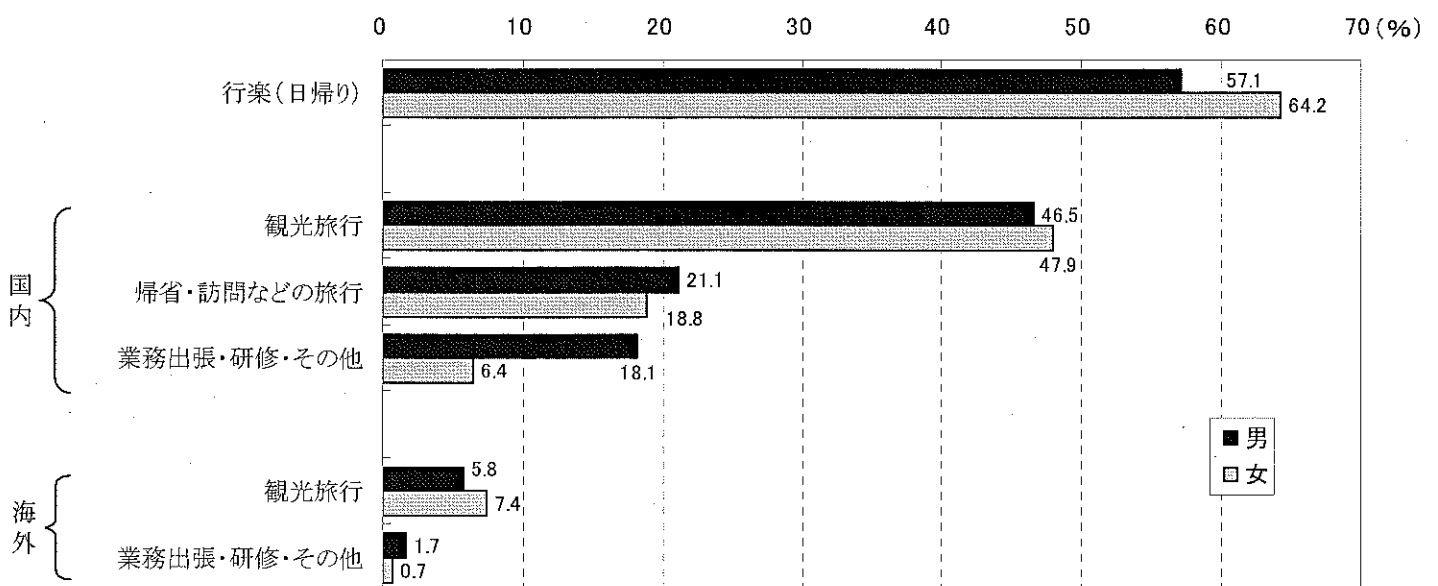


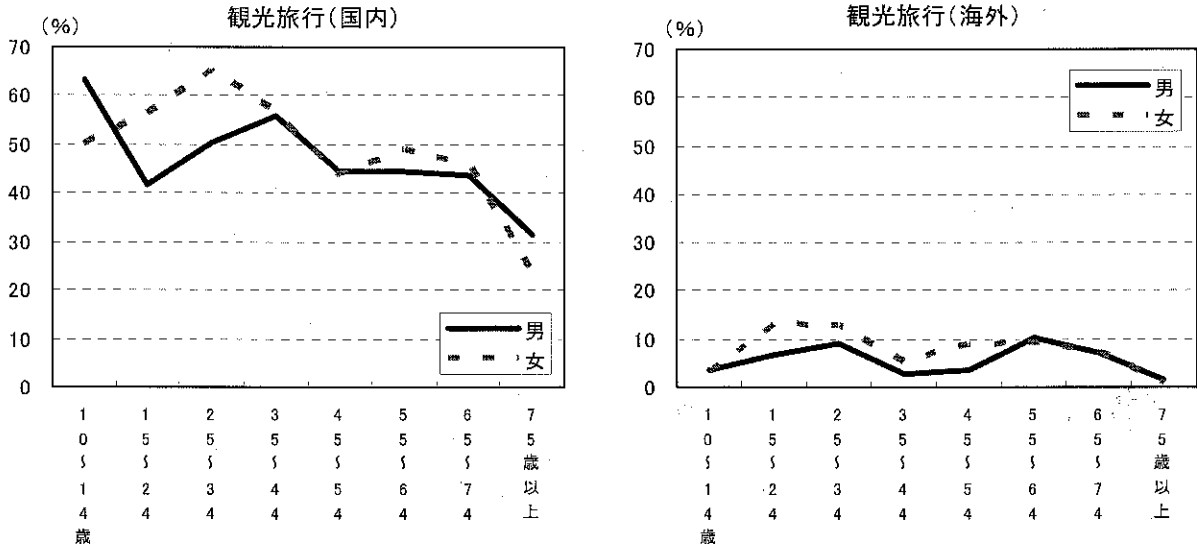
図5-4 「旅行・行楽」の種類, 男女別行動者率



(3) 「観光旅行（海外）」の行動者率は、男性は55～64歳、女性は15～24歳が最も高い

「観光旅行（国内）」の行動者率を男女、年齢階級別にみると、男性は10～14歳が最も高く、次いで35～44歳などとなっており、女性は25～34歳が最も高く、次いで35～44歳などとなっている。「観光旅行（海外）」については、男性は55～64歳が最も高く、女性は15～24歳が最も高くなっている。（図5-5）

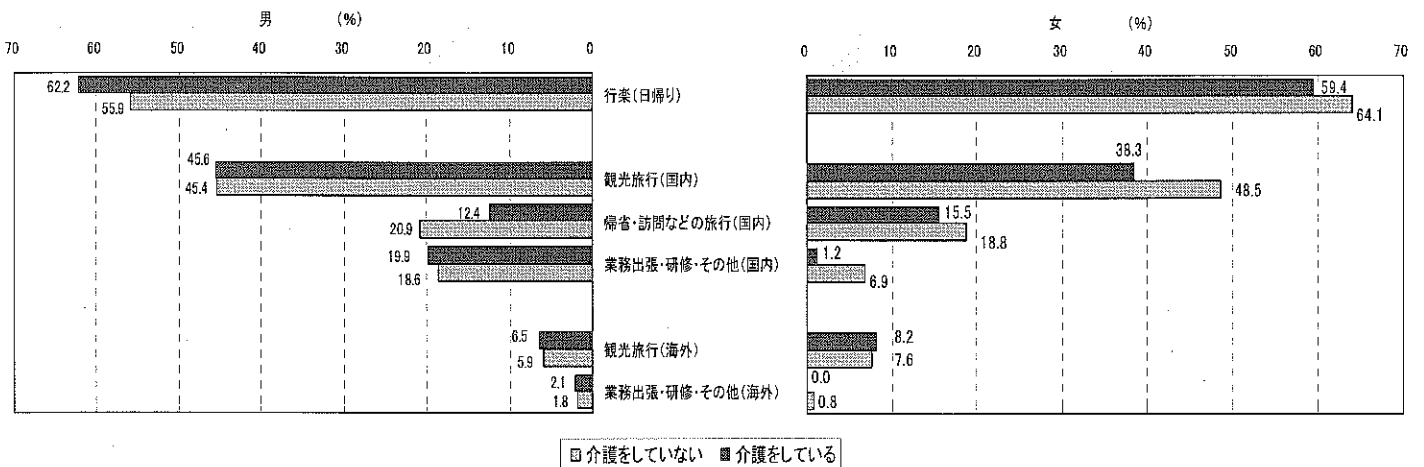
図5-5 「観光旅行」の男女、年齢階級別行動者率



(4) 介護をしている女性は「観光旅行（海外）」を除く全ての「旅行・行楽」の種類で、介護をしていない女性より行動者率が低い

「旅行・行楽」の種類別に介護の有無別の男女の行動者率をみると、男性は「帰省・訪問などの旅行」を除き、すべての種類で介護をしている方が行動者率が高くなっている。女性は逆に、「観光旅行（海外）」を除き、すべての種類で介護をしている方が行動者率が低くなっている。（図5-6）

図5-6 「旅行・行楽」の種類、男女、介護の有無別行動者率

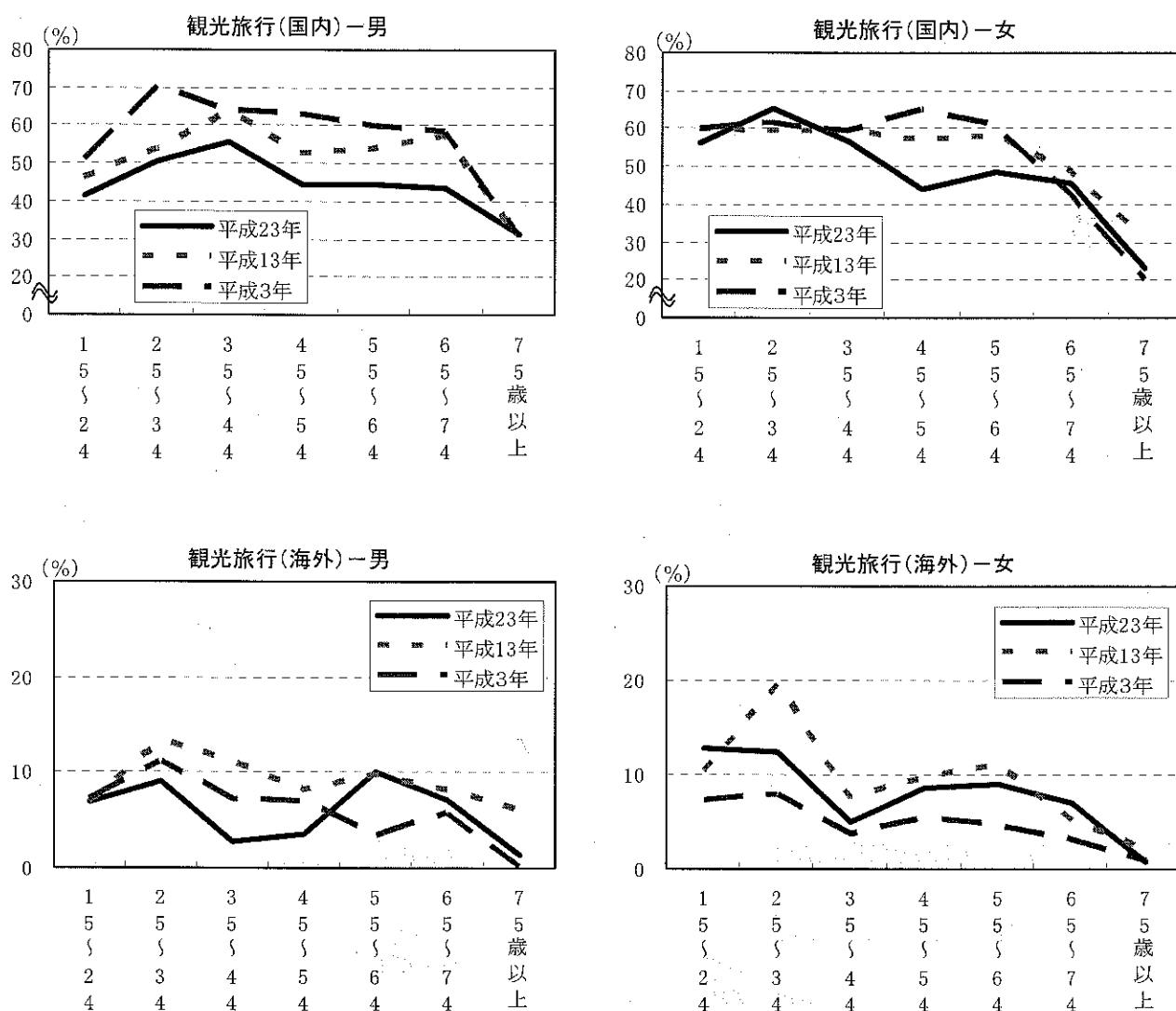


(5) 過去 20 年間の行動者率の推移をみると、「観光旅行（国内）」と「観光旅行（海外）」は一部を除き全体的に低下傾向

「旅行・行楽」の行動者率（15 歳以上）を種類、男女、年齢階級別に平成 3 年、13 年と比べると、「観光旅行（国内）」は、男性は 75 歳以上で、女性は 25～34 歳で平成 23 年が最も高くなっており、逆に男性は 15～74 歳で、女性は 15～24 歳及び 35～64 歳で最も低くなっている。

「観光旅行（海外）」をみると、男性は 55～64 歳で、女性は 15～24 歳及び 65～74 歳で平成 23 年が最も高くなっており、逆に男性は 15～54 歳で、女性は 75 歳以上で最も低く（女性の 75 歳以上は平成 3 年と同じ率に）なっている。（図 5-7）

図 5-7 「旅行・行楽」の種類、男女、年齢階級別行動者率（15 歳以上）
（平成 3 年、13 年、23 年）



注) 平成 3 年は 15 歳以上を調査対象としているため、15 歳以上の年齢階級別行動者率を表章。